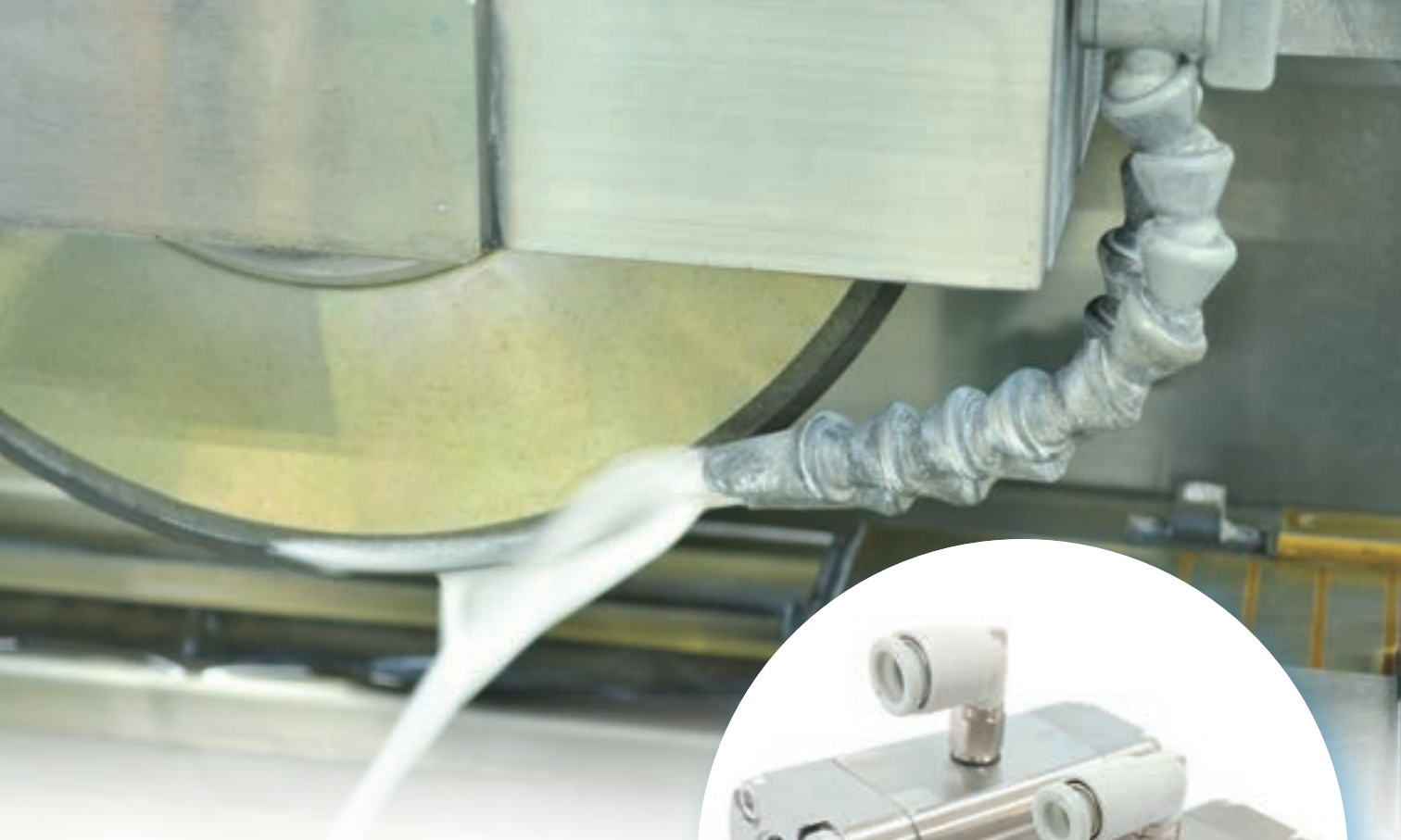
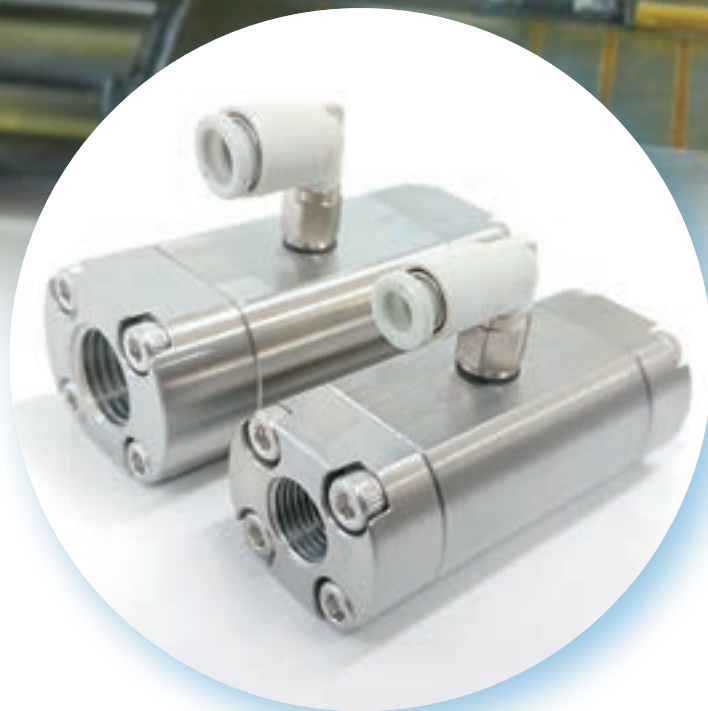




KOKORO
意style

第112期第2四半期 報告書

2022年4月1日～2022年9月30日



●**研削加工用ファインバブル生成器「FB-ASSIST Pシリーズ」**

近年、シャワーヘッドなどに小さな泡を含ませ、洗浄力や皮膚への浸透力をPRする商品が注目されるようになりました。

当社では研削加工用の工作機械向けに、小さな泡であるファインバブルを研削液中に発生させる装置を販売しています。ファインバブルを含んだ研削液による加工により、研削加工の大幅な能率の向上が期待できます。

企業理念

Our Corporate Philosophy

日本タングステンは、
世界の人々と従業員の
明るい未来を実現するために

マテリアルからはじまる価値創造に
挑戦し続けます。

常にNo.1を目指し、かけがえのない存在で
あり続けます。

行動規範

Our Way

私たちは、情熱を持って、
失敗を恐れずチャレンジします。

私たちは、当事者意識を持って、
すぐ行動しやり遂げます。

私たちは、相手の立場になって、
期待以上で応えます。



ごあいさつ

株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜り厚く
お礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症拡大の収束進展と、皆様
のご健康を心からお祈り申し上げます。

当第2四半期の業績は、連結決算では、第2四半期決
算開示制度以降で、連結売上高・連結経常利益が過去
最高を記録し、個別決算でも、経常利益が過去最高を記
録しました。また、1株当たり四半期純利益は214円52銭
となり、コロナ禍以前となる2019年3月期第2四半期時
のレベルまで回復しております。

当社グループは、この度の結果に慢心することなく、
一つひとつの取り組みを着実に推し進め、企業価値の
向上を目指してまいります。今後とも当社グループを何卒
よろしくお願い申し上げます。

2022年12月

取締役社長 後藤信志

第2四半期連結決算において、 過去最高の売上高及び経常利益を達成しました。

Q 当第2四半期の決算のポイント等について教えてください。

**連結売上高及び各利益段階ともに、
前年同期比2桁の伸長となりました。**

当第2四半期における経済環境は、新型コロナウイルス感染症に対する行動制限の緩和や経済活動の正常化が進むものの、ロシア・ウクライナ情勢の長期化による原材料・エネルギー価格の高騰、急激な為替変動による金融市場への不安等により、景気の先行きは依然として不透明な状況が続きました。

当社グループの注力市場につきましては、半導体・電子部品市場が好調を維持し、産業用機器・部品市場でも国内外の設備投資需要に支えられ好調に推移しました。その一方、自動車部品市場は半導体不足の影響等により減収となりました。また衛生用品機器市場では、需要の回復が部分的なものに留まっていることから、低調に推移しました。

これらの結果、当第2四半期の連結売上高は販売価格改定の浸透もあり、66億11百万円(前年同期比12.7%増)となりました。利益面では、増収効果や製造経費及び販管費の圧縮等の収益改善活動を進めたことにより、営業利益は6億2百万円(前年同期比24.8%増)、経常利益は7億56百万円(前年同期比22.2%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は5億18百万円(前年同期比16.6%増)となりました。

Q 通期業績予想やその前提となる今後の市況予測についてお聞かせください。

**業績の下振れリスクが懸念されますが、
「日本タンゲステングループ2024中期経営計画」
を推進し、業績の向上に努めてまいります。**

当社グループの注力市場の受注動向については、好調が続く半導体・電子部品市場で、ハードディスクドライブ(HDD)用磁気ヘッド基板が、データセンター向け需要の一服感から在庫調整等が見込まれます。また、自動車部品市場では、自動車生産の減産による影響が続くものと想定しており、今後も受注状況及び市場環境の動向を注視してまいります。

2023年3月期通期業績は、連結売上高127億円(前期比5.5%増)、営業利益10億50百万円(前期比14.9%増)、経常利益12億60百万円(前期比1.7%増)、親会社株主に帰属する当期純利益9億円(前期比3.4%増)を計画しております。

なお、2023年3月期は、2024中期経営計画の1stステージ「成長に向けた基盤強化(2021・2022年度)」の総仕上げの年となります。当社グループでは、利益体質強化の推進、不採算事業の収益改善及び継続の見極め、また、新商品創出活動の強化等の成長戦略を着実に遂行し、事業ポートフォリオの改善に注力してまいります。

Q より高いガバナンスの構築に向けて取り組みを進められていますが、現在の取締役会の実効性をどのように分析評価されますか？

取締役会の実効性については、概ね適切に確保されていると判断しております。

当社は2022年6月、東京証券取引所が定める「コーポレートガバナンス・コード」に基づき、取締役会の実効性に関する評価を実施いたしました。評価方法としては、各取締役員にアンケートを実施し、各評価項目について5段階評価を行うとともに自由記述欄を設け、意見聴取を行いました。また、取締役会事務局にてこれを集計し、取締役会において評価結果を報告の上、審議を行いました。

今回の結果の中では、経営環境の分析・評価、及び経営指標についての議論に関し、概ね一定の取り組み・改善がなされたとの評価であることが確認された一方、サステナビリティや非財務情報・指標に関する視点での議論が不足しているとの意見が出されました。また、経営戦略の課題・進捗管理及びその他重要案件についての実施状況等のモニタリングに関しては、当社の最優先事項となる施策の実施状況について十分な時間をかけ意見交換を行っていることが評価点として挙げられました。

当社取締役会は評価結果を審議し、取締役会の実効性について概ね適切に確保されていると判断いたしました。一方、ESG・サステナビリティを踏まえた経営分析・評価による経営戦略の実効性においては、さらに改善の余地があることも確認いたしました。当社取締役会は、今回の評価結果を真摯に踏まえ、取締役会の一層の実効性向上のため、今後さらなる改善と継続的な取り組みを行ってまいります。

Q 株主還元の状況についてお聞かせください。

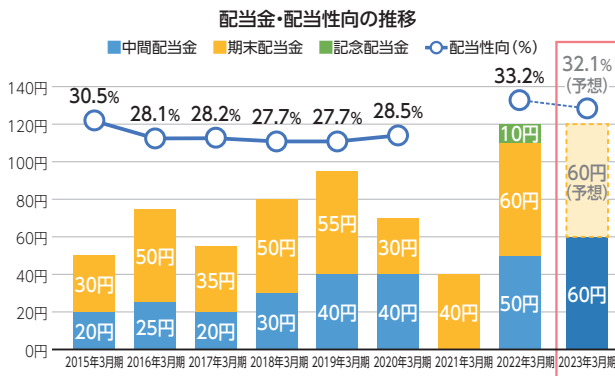
**1株当たり60円の間配当を実施し、
期末配当予想は1株当たり60円としております。**

当社は、親会社株主に帰属する当期純利益の30%を目安に、新商品開発を推進するための設備・人財・研究などへの戦略的投資、中長期的な企業財務体質の強化等を総合的に勘案しつつ、安定的・継続的な配当に努めることとしております。

上記の配当方針のもと、足元の受注動向及び今後の経済環境等も勘案した結果、1株当たり60円の間配当を実施させていただきました。また、期末配当予想につきましても、60円としております。

この結果、年間配当予想は1株当たり120円となります。

株主の皆様におかれましては、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。



※2021年3月期は、当期純損失のため配当性向は該当ありません。

小さな泡で研削加工をより早く

研削加工用ファインバブル生成器

「FB-ASSIST Pシリーズ」

近年、シャワーヘッドなどに小さな泡を含ませ、洗浄力や皮膚への浸透力をPRする商品が注目されるようになりました。当社では研削加工用の工作機械向けに、この小さな泡(ファインバブル)を研削液中に発生させる装置を販売しています。

■ファインバブルの特徴

日常目にする泡より小さい100マイクロメートル(μm)未満の泡をファインバブルと呼び、泡は大きさにより区分され、また、それぞれ特有の特徴を持っています。

マイクロバブル

直径1~100 μm の泡 白く濁ったように見える。
浮力の力で小さくなりながらゆっくりと浮上し、やがて消滅する。

ウルトラファインバブル

直径1 μm 未満の泡 目には見えない。
浮力がとても小さく、刺激を与えなければ浮上せず、数週間~数カ月の寿命があると言われて

■ファインバブルの力で研削加工を効率化

当社の「FB-ASSIST Pシリーズ」は、微細な穴から液流中へガスを分散する微細孔式という方法でファインバブルを生成しており、バブル発生のコア技術には、当社の粉末冶金技術を応用して製造した微細な穴を持つ多孔質セラミックスを用いています。

バブルの大きさは穴の孔径で決まりますが、従来の微細孔式では直径1~100 μm のマイクロバブルしか生成できない課題がありました。当社の多孔質セラミックスは、業界最小孔径※1を有しており、困難と言われていた直径1 μm 未満のウルトラファインバブルの生成に成功しました。ウルトラファインバブルとマイクロバブルを含んだ研削液による研削加工は、被削材にかかる負荷を小さくでき、また、工具の目詰まりを抑制する効果が期待できます。

その結果、従来より切込み量を増やした条件でも品質を損なわずに長時間連続で加工でき、研削加工の能率を大幅に向上することが期待できます。

■ものづくりの進化に貢献する日本タングステン

タングステンという硬い金属を長年にわたり削り続けてきた日本タングステン。

金属などの緻密さを追求するだけでなく、あえて隙間に着目し泡を生み出す発想と、「加工に時間がかかることは当たり前」を当事者目線で考え、「FB-ASSIST Pシリーズ」が常識を変えることで、ものづくりの発展を支え続けます。



FB-ASSIST Pシリーズ

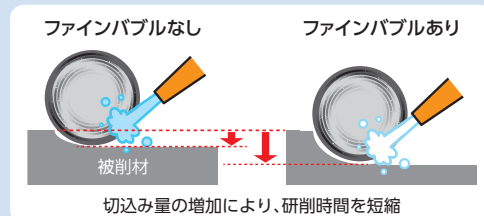
マイクロバブル 1~100 μm 炭酸水の泡 約500 μm



ウルトラファインバブル
1 μm 未満



※100 μm =0.1mm

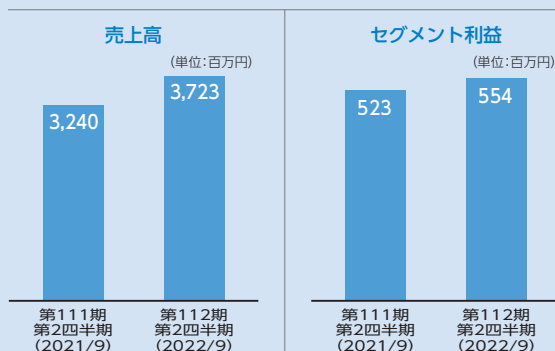


事業別の業績概要

機械部品事業

衛生用品機器市場が低調なものの、半導体・電子部品市場、産業用機器・部品市場とも好調に推移しました。

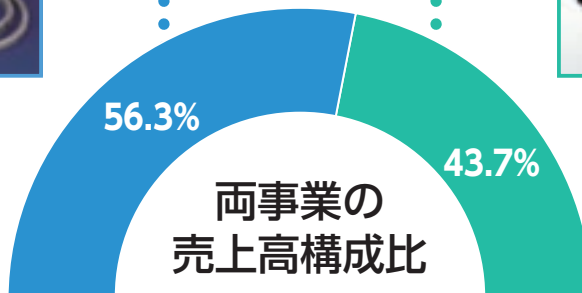
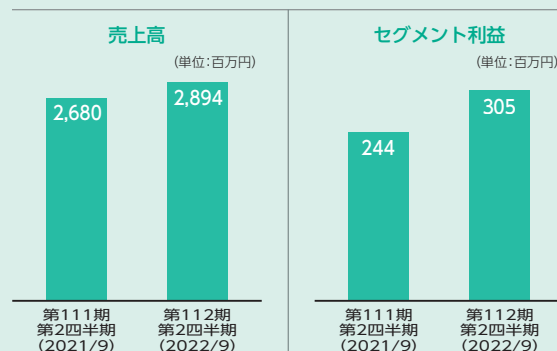
この結果、機械部品事業の**売上高は前年同四半期比14.9%増の37億2千3百万円**となり、**営業利益は同6.0%増の5億5千4百万円**となりました。



電機部品事業

半導体不足による自動車の減産の影響により、自動車部品市場が減収となったものの、産業用機器・部品市場、衛生用品機器・医療用部品市場では海外の需要が継続して、好調に推移しました。

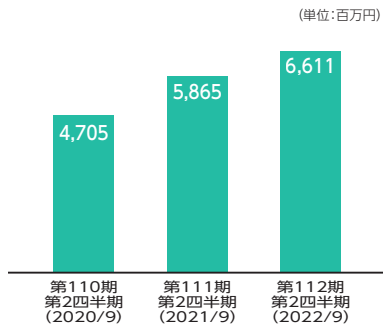
この結果、電機部品事業の**売上高は前年同四半期比8.0%増の28億9千4百万円**となり、**営業利益は同25.3%増の3億5百万円**となりました。



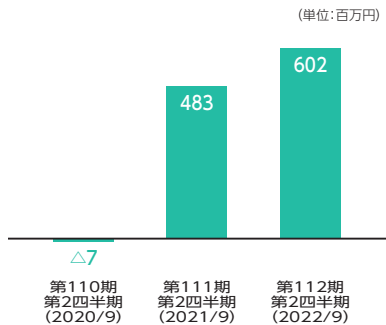
(注)売上高はセグメント間の取引を含んでおり、営業利益は全社費用等調整前の金額です。

業績等の推移(連結)

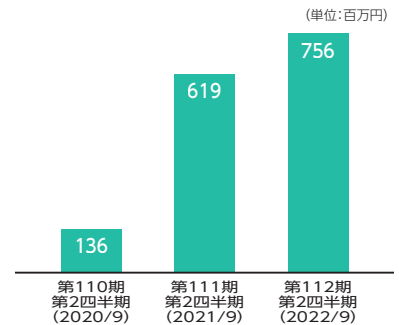
売上高



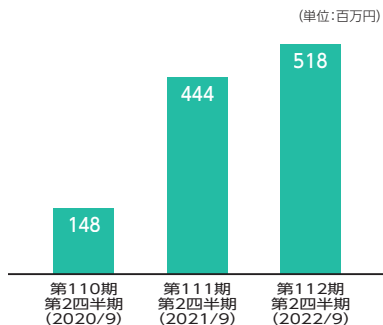
営業損益



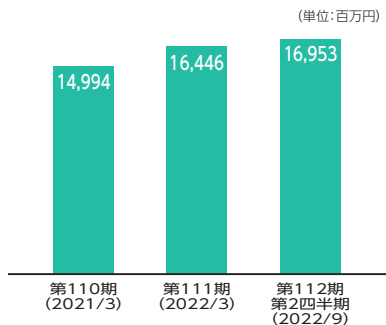
経常利益



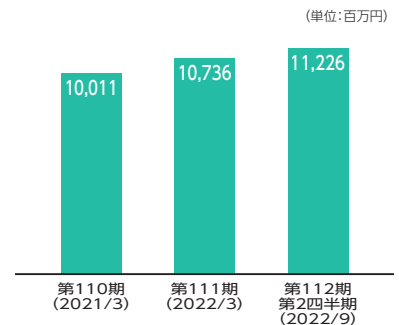
親会社株主に帰属する四半期純利益



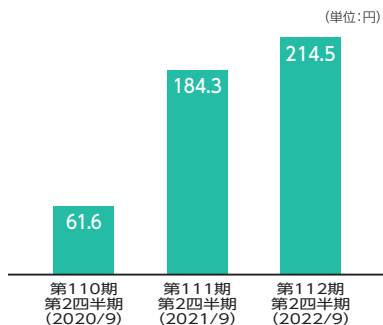
総資産



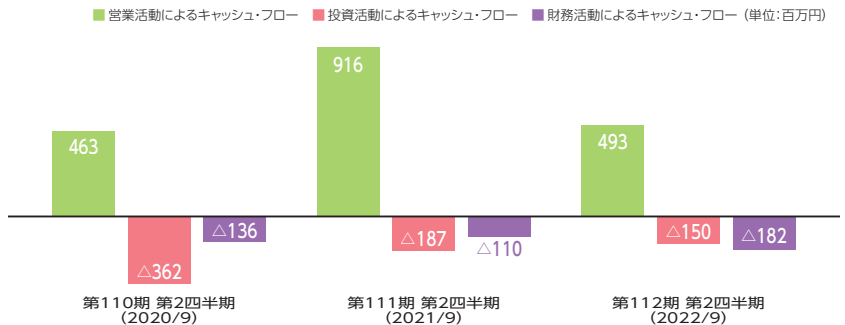
純資産



1株当たり四半期純利益



キャッシュ・フローの状況



● 会社の概要 2022年9月30日現在

設立	1931年(昭和6年)4月1日
資本金	25億950万円
従業員数	515名(連結)
本社	福岡市博多区美野島一丁目2番8号
事業所	事務所：東京・大阪・刈谷 工 場：基山・飯塚・宇美

役 員 2022年9月30日現在

取締役社長	後藤 信志	代表取締役 社長執行役員
取締役	毛利 茂樹	常務執行役員 事業・開発技術統括責任者、品質保証担当、事業支援本部担当
取締役	中原 賢治	執行役員 電機部品事業本部長 兼 経営企画担当 兼 基山工場長
取締役	原口 寿	執行役員 経営管理本部長、コンプライアンス担当
社外取締役	穠山 泰治	九州電力株式会社 取締役常務執行役員
取締役	今里 州一	監査等委員(常勤)
社外取締役	久留 和夫	監査等委員 久留公認会計士事務所 代表
社外取締役	小田 昌彦	監査等委員
社外取締役	杉原 知佳	監査等委員 三浦・奥田・杉原法律事務所 共同経営弁護士
	味富 晋三	執行役員 機械部品事業本部長

関係会社 ■ 連結子会社 ● 分法法適用関連会社

国内	■ 株式会社福岡機器製作所 ■ 株式会社昭和電気接点工業所
中国	■ 上海恩梯三義美業发展有限公司
アメリカ	■ NIPPON TUNGSTEN USA, INC.
イタリア	■ NIPPON TUNGSTEN EUROPE S.r.l.
ブラジル	■ NIPPON TUNGSTEN DO BRASIL SOLUÇÕES DE CORTE LTDA.
タイ	● SV NITTAN CO., LTD.

株主メモ

決算期	3月31日
基準日	定時株主総会、期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日 そのほか必要あるときはあらかじめ公告して定めます。
定時株主総会	6月
上場証券取引所	東京(スタンダード市場)、福岡
証券コード	6998
公告方法	当社のホームページ(https://www.nittan.co.jp/)に掲載します。ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載します。
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目3番3号 みずほ信託銀行株式会社
株主名簿管理人 事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目3番3号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部

● 株式の状況 2022年9月30日現在

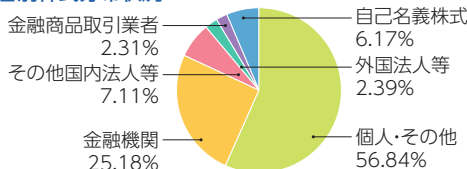
発行可能株式総数	10,000,000株
発行済株式の総数	2,577,760株
単元株式数	100株
株主総数	3,192名

大株主の状況

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (退職給付信託口・九州電力株式会社及び九州電力送配電株式会社口)	166,665	6.89
株式会社福岡銀行	107,262	4.43
日本タングステン取引先持株会	88,200	3.64
日本タングステン従業員持株会	84,782	3.50
みずほ信託銀行株式会社	64,300	2.65
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	60,600	2.50
明治安田生命保険相互会社	60,170	2.48
株式会社西日本シティ銀行	50,917	2.10
株式会社佐賀銀行	50,000	2.06
宇部マテリアルズ株式会社	40,000	1.65

- 上記のほか、自己株式を159,254株保有しております。
- 持株比率は自己株式(159,254株)を控除して計算しております。
- 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(退職給付信託口・九州電力株式会社及び九州電力送配電株式会社口)の持株数166,665株は、九州電力株式会社及び九州電力送配電株式会社から同信託銀行へ信託設定された信託財産であります。信託契約上当該株式の議決権は九州電力株式会社及び九州電力送配電株式会社が留保しております。

所有者別株式分布状況



株式事務手続きに関するお問い合わせ先

● 証券会社等に口座をお持ちの株主さま

住所・氏名等、届出事項の変更 配当金受取方法の変更 単元未満株式の買取請求 等	お取引の証券会社等までお問い合わせください。
未受領の配当金のお受取について	下記株主名簿管理人(みずほ信託銀行証券代行部)までお問い合わせください。

● 特別口座をお持ちの株主さま

各種手続き等	下記特別口座管理機関(みずほ信託銀行証券代行部)までお問い合わせください。
--------	---------------------------------------

株主名簿管理人・特別口座管理機関へのお問い合わせ

みずほ信託銀行 証券代行部

〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号

☎0120-288-324 (受付時間 土・日・祝日を除く9:00~17:00)